

環境アセスメント学会

2025 年度 第 24 回大会プログラム

The 24th Annual Conference Program in 2025

The Japan Society for Impact Assessment



2025 年 9 月 5 日（金）、6 日（土）

5-6 September 2025

名古屋大学 東山キャンパス IB 電子情報館 中棟

2025 年度環境アセスメント学会第 24 回大会開催について

2025 年度環境アセスメント学会第 24 回大会を、名古屋大学東山キャンパスで開催することとなりました。今年は、2005 年に自然の叡智をテーマに開催された「愛・地球博」の開催から 20 年が経つことから「愛知万博 20 年：過去，現在，未来」をテーマとした公開シンポジウムとして開催するほか、エクスカーションとして海上の森を訪問する予定です。

円滑な大会運営に努めますが、ご参加いただくみなさまにおかれましても、大会運営にご協力いただきますようお願い申し上げます。

環境アセスメント学会第 24 回大会実行委員長

林 希一郎

(名古屋大学 未来材料・システム研究所 システム創成部門 教授)

【参加申込等に係る注意事項】

- ・大会に参加される方は、原則として、事前の大会参加申込と参加費振込が必要となります。会場での参加費の当日支払い受付は基本的に受け付けません。
- ・学会ホームページに掲載の方法で参加申込及び参加費振込をお願いします。大会の参加申込の締切は、早期申し込み（割引あり）は 8 月 18 日（月）、通常申し込みは 8 月 28 日（木）です。
- ・要旨集ダウンロードの情報は、大会参加に事前申し込みをいただいた方にメールでお知らせします。
- ・シンポジウム「愛知万博 20 年：過去，現在，未来」は一般公開とします。シンポジウムのみ参加の一般の方はオンラインのみの参加が可能です。接続に関する情報はメールでお知らせします。この場合、配布資料は発行いたしません。

【大会プレイベントのご連絡】

9 月 4 日（木）14:00-17:00（13:30 開場）に、環境省主催、名古屋大学未来材料・システム研究所共催、環境アセスメント学会後援で、「環境影響評価の審査の在り方について」が開催されます。大会と同じ会場（名古屋大学 東山キャンパス IB 電子情報館中棟）で実施し、Web 配信も行われます。参加費無料です。環境省主催シンポジウムへの参加方法等については、環境省 HP（環境影響評価情報支援ネットワーク等）でご案内します。

環境アセスメント学会第 24 回大会実行委員会

実行委員長	林 希一郎	名古屋大学 教授
副実行委員長・会計担当	森下 英治	愛知学院大学 教授
委員	浦郷 昭子	有限会社レイヴン
委員	小森 繁	環境省 参与
委員	本巢 芽美	名古屋大学 特任准教授
委員	伊東 英幸	日本大学 教授（若手研究会）
委員	末次 優花	日本大学 助手（若手研究会）
委員	松島 正興	株式会社三菱地所設計（行事委員会）
オブザーバー	猪岡 貴光	環境省 中部地方環境事務所 環境対策課 課長
オブザーバー	國立 将光	愛知県 環境局環境政策部環境活動推進課 課長補佐

2025 年度 第 24 回大会プログラム

日程：9月5日（金）、9月6日（土） 場所：名古屋大学 東山キャンパス IB 電子情報館 中棟
方法：現地対面開催（シンポジウムのみ参加の一般の方はオンラインのみの参加が可能です）

大会スケジュール・プログラム概要

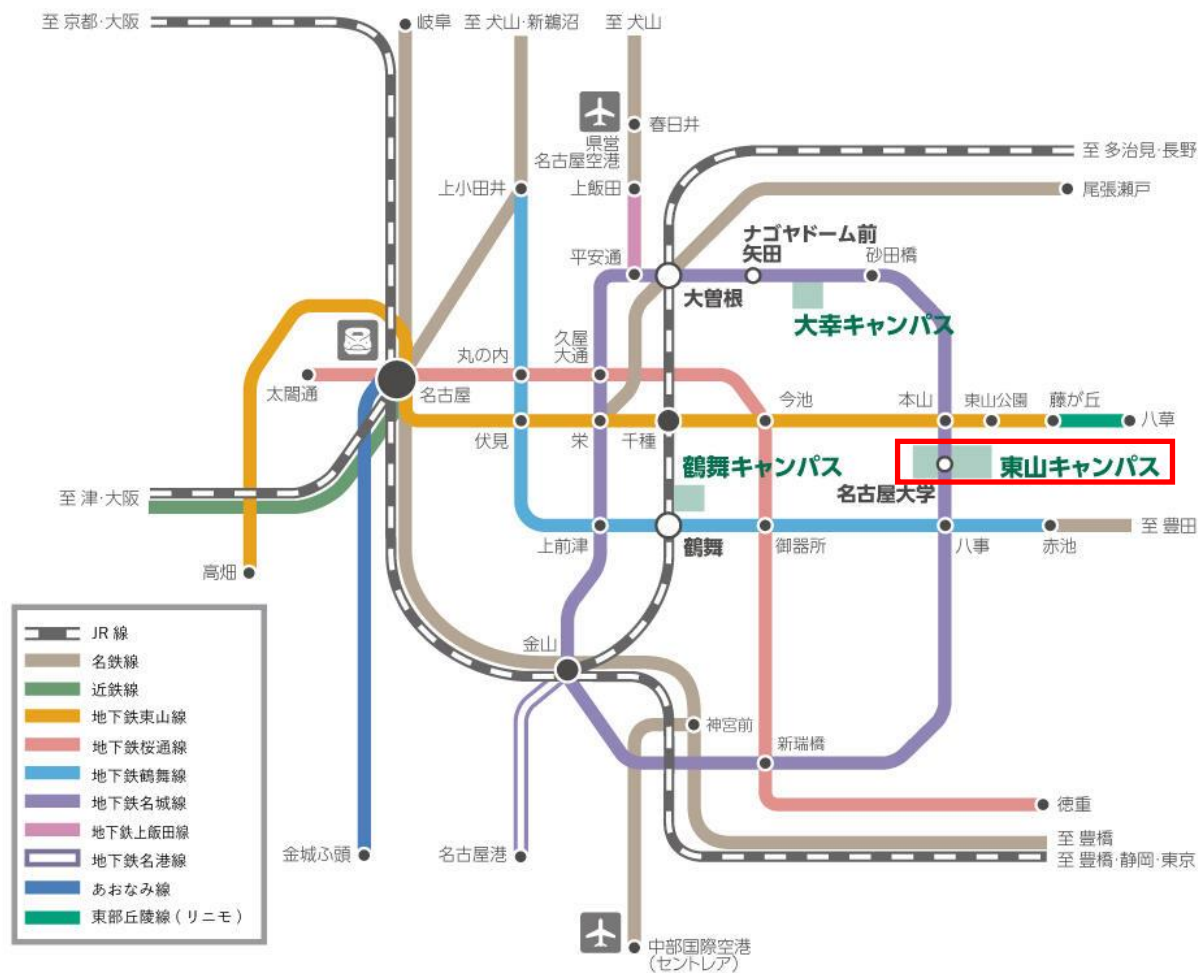
大会 1 日目（9月5日、金曜日） IB 電子情報館中棟

08:30 受付開始（1階ロビー）		
09:00-10:20 1階 IB011 一般研究発表① 「政策・制度 1」【4 件】	09:00-10:20 1階 IB013 一般研究発表② 「合意形成、市民参加」【4 件】	9:00-10:40 1階 IB012 特別集会 1 「戦略的思考のワークショップ」
10:20-10:30 休憩		
10:30-11:50 1階 IB011 特別集会 2 「エリア対応アセス その 2」	10:30-11:50 1階 IB013 一般研究発表③ 「調査・予測・評価 1」【4 件】	
12:00-13:00 昼食		
12:30-13:30 1階 IB012 ポスターセッションコアタイム 【13 件】		
13:30-13:40 休憩		
13:40-13:50 2F 大講義室 開会式 開会挨拶 村山 武彦（本学会会長／東京科学大学）		
13:50-14:30 2F 大講義室 受賞記念講演 優秀賞 研究部門受賞者 倉阪 秀史（千葉大学） 奨励賞 研究部門受賞者 柴田 裕希（東邦大学）		
14:30-14:40 休憩		
14:45-16:55 2階 大講義室 公開シンポジウム： 主催 大会実行委員会 共催 国立大学法人東海国立大学機構名古屋大学未来材料・システム研究所 テーマ 「愛知万博 20 年：過去，現在，未来」 司会 浦郷 昭子（㈲レイヴン・当学会理事・大会実行委員） [趣旨説明] 14:45-15:00(15 分) 小森 繁（環境省 参与：前環境省中部地方環境事務所長） [講演] 15:00-15:20(20 分) 愛知万博を振り返る 小林 正明（元環境事務次官，当学会副会長） 15:20-15:40(20 分) 海上の森の今 大村 宏（あいち海上の森センター所長） <休憩> 15:40-15:45(5 分) [話題提供] 15:45-15:50(5 分) 原科 幸彦（千葉商科大学前学長、東京工業大学名誉教授） 15:50-15:55(5 分) 吉田 正人（日本自然保護協会監事，筑波大学名誉教授） 15:55-16:00(5 分) 町村 敬志（東京経済大学教授、一橋大学名誉教授） 16:00-16:05(5 分) 福井 弘道（中部大学教授） パネルディスカッション パネラー：話題提供者 及び 小林 正明 氏 モデレーター：村山 武彦（東京科学大学，当学会会長） コメンテーター：山本 麻衣（環境省 大臣官房 環境影響評価課長） 16:05-16:45(40 分) パネルディスカッション 16:45-16:50(5 分) 会場からの意見 16:50-16:55(5 分) コメンテーターによるコメント		
17:00-17:30 移動		
17:30- 名古屋大学内「花ノ木」 懇親会・ポスター賞表彰		

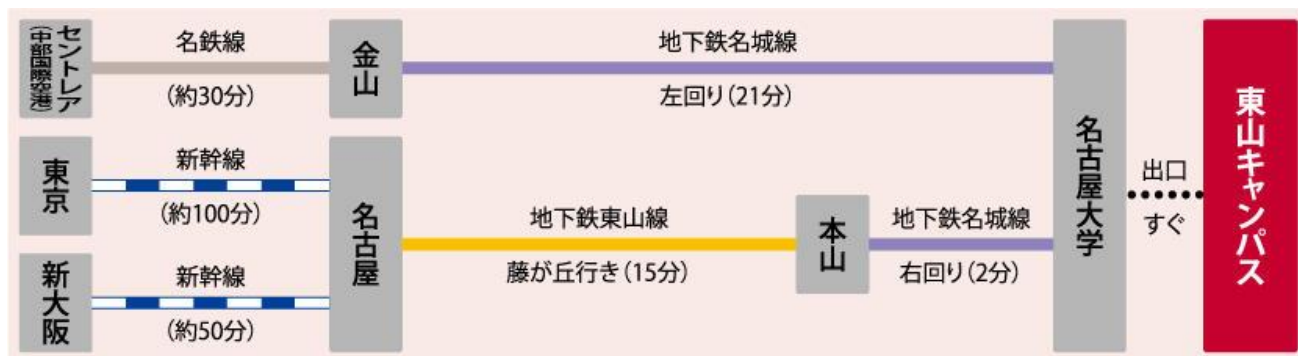
大会 2 日目（9 月 6 日、土曜日） IB 電子情報館中棟

08:30 受付開始（1 階ロビー）	
08:50-09:50 1 階 IB011 一般研究発表④ 「政策・制度 2」 【3 件】	09:00-10:20 1 階 IB013 一般研究発表⑤ 「調査・予測・評価 2」【4 件】
09:50-10:00 休憩	10:20-10:30 休憩
10:00-11:50 1 階 IB011 特別集会 3 「再生可能エネルギー開発に伴う 地域の課題と合意形成」	10:30-11:50 1 階 IB013 一般研究発表⑥ 「事例」 【4 件】
12:00-12:05 1 階 IB011 閉会式	
12:50-17:00 エクスカーション（海上の森） 12:50 集合 名古屋大学 13:00 発（バス移動） → あいち海上の森センター訪問及び海上の森内散策 → モリコロパーク解散	

■ アクセスマップ



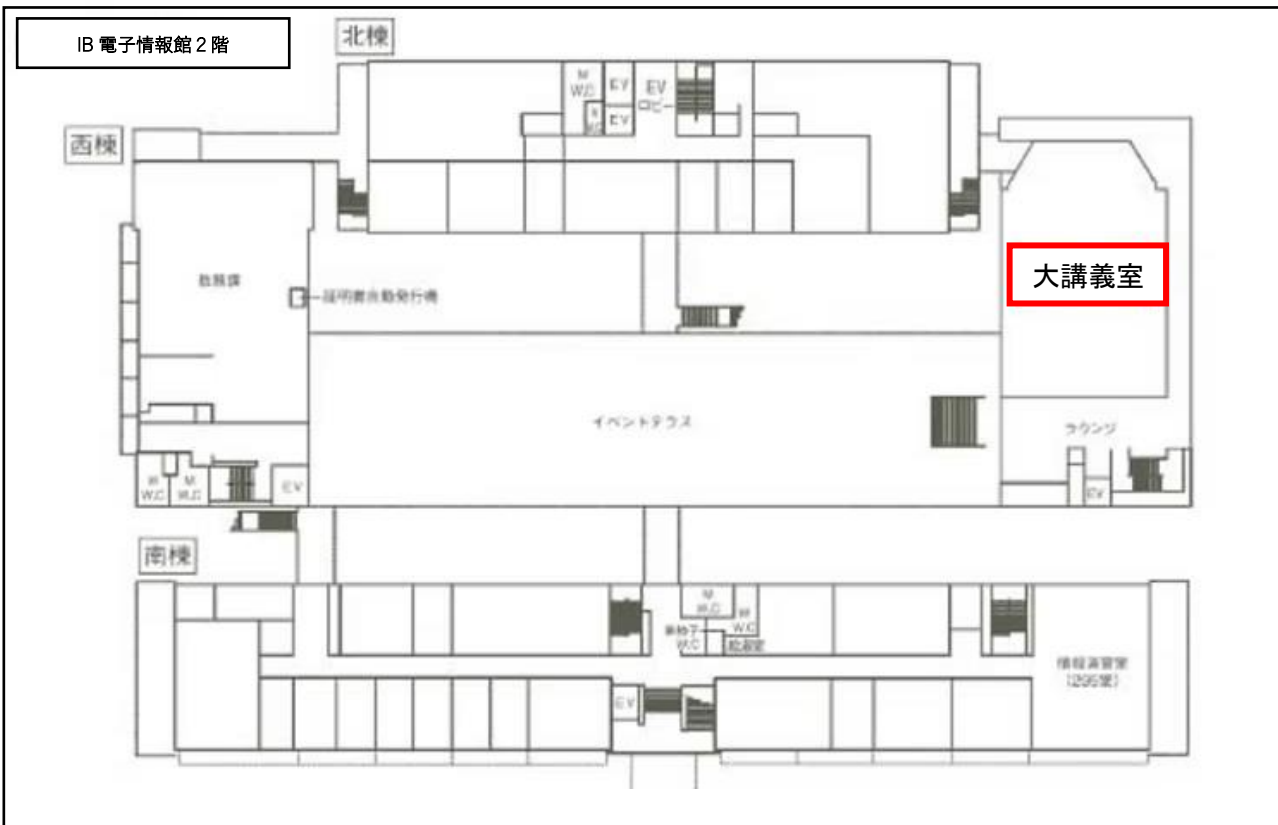
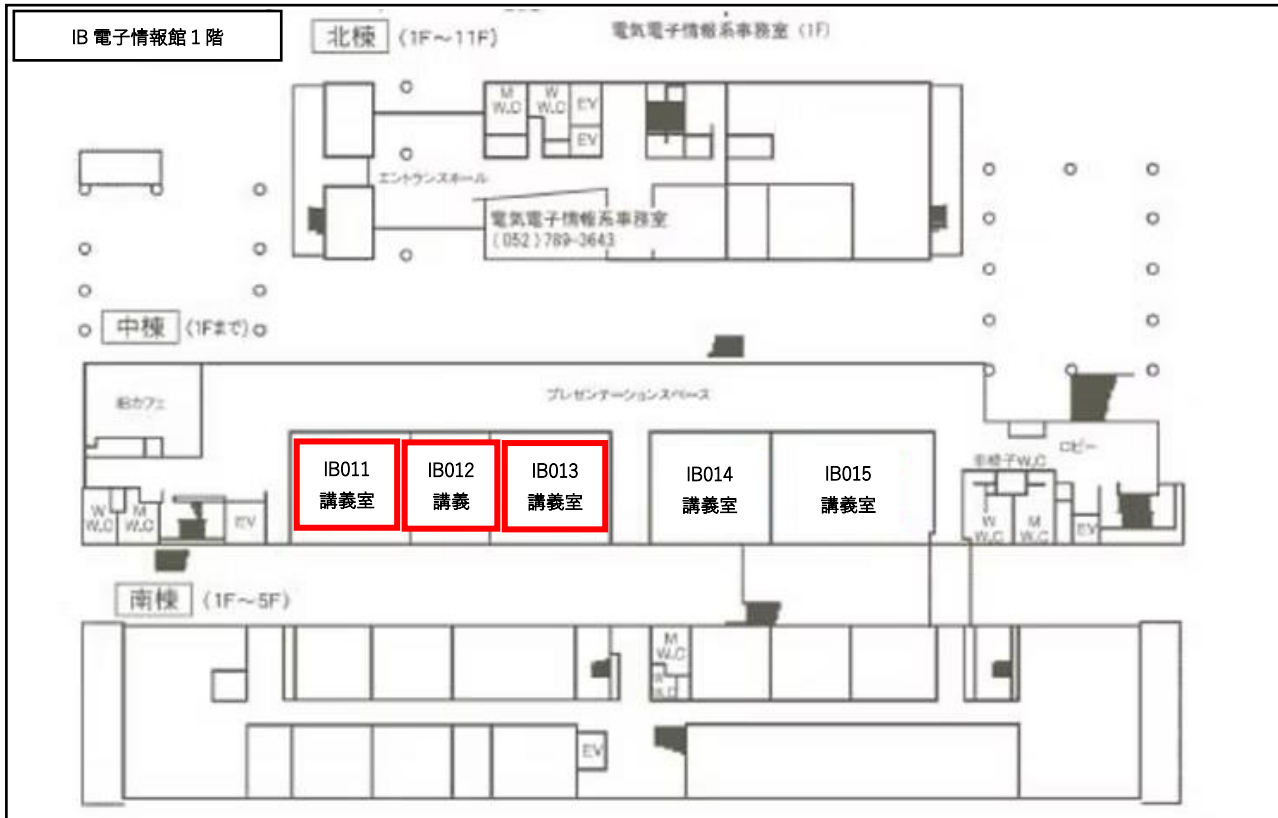
地下鉄名城線名古屋大学駅下車すぐ



■ キャンパスマップ



■IB 電子情報館 平面図



プログラム詳細

一般研究発表プログラム（注：肩書きは報告者のみ、発表時間＋質疑は各 20 分）及び特別集会

大会 1 日目（9 月 5 日、金曜日） IB 電子情報館

■一般研究発表① 「政策・制度 1」 1 階 IB011

座長：上杉 哲郎（学会常務理事） 座長補佐：森川 翔太（(株) 東京久栄）

1	09:00-09:20	環境影響評価法の改正について ○寺田 彩乃（環境省）、畠山 寛希、勝又 天
2	09:20-09:40	洋上風力発電の環境配慮に係る制度的取組等について ○野玉 悠葵（環境省）
3	09:40-10:00	「洋上風力発電所の環境影響に係るモニタリングガイドライン（案）」について ○染谷 祐太郎（環境省）、會田 義明、竹内 麻莉奈
4	10:00-10:20	地域特性を活かした熊本市の環境影響評価制度 ○後藤 圭輔（(株) 株式会社エイト日本技術開発）、西岡 樹、林 正男、大谷 正太、築場 則昭、熊本市環境局環境推進部環境政策

■一般研究発表② 「合意形成、市民参加」 1 階 IB013

座長：錦澤 滋雄（学会常務理事） 座長補佐：長澤 康弘（東京科学大学）

1	09:00-09:20	愛知万博アセスの再評価 ー戦略的環境アセスメントと合意形成の観点からー ○原科 幸彦（東京科学大学）
2	09:20-09:40	再生可能エネルギーの開発・立地に係る地域の合意形成ガイドライン(試案)枠組みの検討 ○田中 充（法政大学）、馬場 健司
3	09:40-10:00	住民アセスの歴史と可能性 ○傘木 宏夫（NPO地域づくり工房）
4	10:00-10:20	環境アセスメントへの住民参加手法ー市民討議会手法の応用 ○花岡 千草（兵庫県立大学・東洋大工業技術研究所）

■特別集会 1 「戦略的思考のワークショップ」 1 階 IB012

コーディネーター 浦郷 昭子（有限会社レイヴン）

09:00-10:40 イタリアで開催された IAIA25 で行われた Maria do Rosário Partidário による戦略的思考のワークショップを参考に、日本の架空事例を想定して戦略的思考のワークショップを行う。最初に簡単な事例を紹介し、次にグループワークでそれぞれに与えられた課題に戦略的思考で取り組む。身近な課題を取り上げるため、基本的知識がなくても気軽に参加が可能である。	
<プログラム>	
1. 戦略的思考の解説（10 分）	
2. 問題分析と戦略的オプションの事例紹介（10 分）	
3. グループワーク(1 時間)	
4. グループ発表(20 分)	

■特別集会2 「エリア対応アセス その2」 1階 IB011

コーディネーター 柴田裕希（東邦大学）

10:30-11:50	小冊子WGでは、複数事業全体によりもたらされる、複合したあるいは累積した環境影響への対応を考えるため、各地における様々な事例を収集し、分析してきた。これらに対処するためには、一定エリアの空間的範囲、時間的範囲、対象とする環境項目を特定し、エリア対応としてのアセスを実施する必要がある。これをエリア対応アセスとし、その内容、体制、情報交流、技術的手法について整理をするため、新たに事例を追加し、課題の抽出と対応の検討を行った。新たな検討結果に基づき特別集会を開催する。
<プログラム>	
1.	はじめに 「趣旨説明」：柴田 裕希（東邦大学）
2.	追加された事例と課題 ・報告1「近隣の沿岸域で面開発が複数実施される事例」：砂川 かおり（沖縄国際大学） ・報告2「近隣で面開発が複数実施される事例」：持木 克之（埼玉大学） ・報告3「複数の事業がエリアで進むときの対応と課題」：上杉 哲郎（株式会社日比谷アメニス）
3.	エリア対応アセスの勧め ・一定エリアの複数事業に適切に対処するために：上杉 哲郎（株式会社日比谷アメニス）
4.	全体討論

■一般研究発表③ 「調査・予測・評価1」 1階 IB013

座長：真田 純子（学会常務理事） 座長補佐：中川 智美（環境省）

1	10:30-10:50	地域脱炭素戦略に関する情報提供と環境影響評価手続きへの貢献 ○本巢 芽美（名古屋大学）、丸山 康司、平春 来里、小野寺 弘晃、山下 紀明
2	10:50-11:10	気候変動適応策の環境保全措置・評価手法への適用に関する基礎的検討 ○尾原 正敬（（一社）日本環境アセスメント協会、㈱千代田コンサルタント）、井田 一成、岡本 直也、萩野 主大、吉田 一哉、渡邊 英明
3	11:10-11:30	地熱発電所の環境アセスメントにおける硫化水素の植生への影響調査手法の検討 ○岡田 真秀（東北緑化環境保全㈱）、土屋 郷、大関 幸織、青木 一樹
4	11:30-11:50	AI画像解析システムを用いた交差点交通量調査に関する実証研究 ○福山 哲司（ムラタ計測器サービス㈱）、倉橋 央翁、御厨 康平、福池 晃

大会2日目（9月6日、土曜日）IB 電子情報館

■一般研究発表④ 「政策・制度2」 1階 IB011

座長：奥 真美（学会常務理事） 座長補佐：竹内 彩乃（東邦大学）

1	08:50-09:10	自治体の総合計画における持続可能性アセスメントの導入可能性 ○高橋 克英（東邦大学）、柴田 裕希、上杉 哲郎、浦郷 昭子、傘木 宏夫
2	09:10-09:30	アジア開発銀行における環境社会配慮政策の策定過程 ○辻 昌美
3	09:30-09:50	廃棄物最終処分場に対する条例アセスでの課題 ○門屋 真希子（公益財団法人東京都環境公社）

■一般研究発表⑤ 「調査・予測・評価2」 1階 IB013

座長：佐藤 律子（学会理事） 座長補佐：鷹野 まい（(株)オオバ）

1	09:00-09:20	アセス図書から推定した風力発電施設の将来騒音変化 ○内田 英夫（元長野県環境保全研究所）、町田 哲
2	09:20-09:40	遺産影響評価（HIA）、特にその枠組みの検討と影響評価手法について ― 世界文化遺産登録を目指す「阿蘇」での試み ― ○早坂 竜児（㈱パスコ）、飯塚 有里子、新開 美穂、熊本県 阿蘇草原再生・世界遺産推進課
3	09:40-10:00	HSI モデルを用いたビオトープ整備等の代償措置の効果予測と事後調査による検証 ○大谷 正太（㈱エイト日本技術開発）、根本 勝、三原 義朗、神尾 宏司
4	10:00-10:20	機械学習を伴わないPAM（受動的音響モニタリング）用の音声分析の試み ○岩柳 光夫（有限会社レイヴン）、浦郷 昭子

■特別集会3 「再生可能エネルギー開発に伴う地域の課題と合意形成」 1階 IB011

コーディネーター 田中 充（法政大学） 座長補佐：末次 優花（日本大学）

10:00-11:50 風力発電や太陽光発電等の開発計画にともない、地域の自然環境や住民の生活環境への影響が懸念され、地域住民、団体等から反対の声が上がり、中には紛争化して事業計画の中止に至る事例もみられている。そこで、本特別集会では、風力発電事業を中心に全国で紛争化している事例を検証し、地域に生じる課題の構造とその発生要因を探るとともに、とくに地域住民とのコミュニケーションと合意形成に焦点を当てて、その解決策の在り方を考察する。 <プログラム> 1. 趣旨と進め方説明（5分）：田中 充（法政大学） 2. 基調提起(20分) 再エネ事業の立地に伴う地域との合意形成：丸山 康司会員 3. 報告 ・報告1(15分) 再エネ開発に対する住民の動向と課題：傘木 宏夫会員 ・報告2(15分) 東北地方における再エネ立地の問題事例～山形県を中心に：三浦 秀一先生 ・報告3(15分) 洋上風力発電の立地に伴う協議会の役割～秋田県の事例から：竹内 彩乃会員 ・報告4(15分) 生物多様性・生態系サービス評価を考慮した再エネ発電適地評価手法の開発 ：林 希一郎会員 4. 全体討論（25分）発表者、会場参加者との質疑、意見交換、討論のまとめ 進行：田中 充会員		
---	--	--

■一般研究発表⑥ 「事例」 1階 IB013

座長：伊東 英幸（学会常務理事） 座長補佐：長岡 篤（千葉商科大学）

1	10:30-10:50	海洋温度差発電（OTEC）の実用化へ向けた環境アセスメントの検討 ○松岡 哲史（㈱商船三井）、多部田 茂、水野 勝紀、小野 奈都美
2	10:50-11:10	陸上風力発電事業における累積的影響に関する意見発生状況の地域比較 ○高木 健太郎（東京科学大学）、錦澤 滋雄、長澤 康弘、村山 武彦
3	11:10-11:30	風力発電機の設置地点の特性に関する考察 ○持木 克之（埼玉大学）
4	11:30-11:50	環境影響評価制度における自治体意見の内容分析 ―道路事業を対象として ○橋本 輝（東京科学大学）、村山 武彦、錦澤 滋雄

■ポスターセッション（注：肩書きは主報告者のみ） 【コアタイム 9月5日（金）12：30-13：30】

1階 IB012 ※「若手部門」は優秀ポスター賞の候補となります。

1	複数の風力発電所による累積的な騒音レベルの把握に向けた検討 ○鶴山 剛（東京科学大学）、村山 武彦、錦澤 滋雄	若手
2	地域共生型の再生可能エネルギー条例に対する考察 ―宮城県「再生可能エネルギー地域共生促進条例」を事例に― ○宮本 誠隆（東邦大学大学院）、本巢 芽美、竹内 彩乃	若手
3	海鳥コロニーデータベースを用いた調査継続性の可視化と調査空白地域の抽出 ○飯部 智弘（東邦大学）、竹内 彩乃	若手
4	国外における近年のロードキル対策に関する一考察 ○末次 優花（日本大学）、伊東 英幸	若手
5	洋上風力発電導入に向けた協議プロセスの事例研究 ―長崎県西海市を対象として― ○関 真大（東邦大学）、竹内 彩乃	若手
6	正義からとらえる「環境社会配慮」 ○玉村 優奈（東京大学）	若手
7	島津資料の万博検討会議メーリングリストファイルの概要 ○傘木 宏夫（NPO地域づくり工房）	一般
8	帯広広尾道路の法面緑地におけるCO ₂ 吸収量について ○上月 佐葉子（パシフィックコンサルタンツ(株)）、澤野 麻利江、石塚 伸太郎、菊地 未宙、加藤 敦子	一般
9	避難所指定の公立学校における再生可能エネルギー設備の導入実態 ○小森 瑞穂（東京科学大学）、錦澤 滋雄、村山 武彦	一般
10	石垣島におけるロードキルの発生要因分析 ○伊東 英幸（日本大学）、國分 玲美、辻 維周	一般
11	大型物流・データセンターの建設や稼働に伴う環境影響リスクと環境負荷低減のための課題 ○青木 玲子（(株)環境管理センター）	一般
12	リモートセンシング技術による生物多様性情報の可視化～お空（宙）からみる生物多様性☆チーム“osora”の挑戦！！～資料収集の途中経過報告― ○庄司 顕則（一般社団法人日本環境アセスメント協会/（株）長大）、勢井 慎太郎、市谷 優太、増原 碩之、花井 隆晃	一般
13	自然共生サイト認定申請に係る調査・検討の負担軽減に向けた研究 ―制度・事例分析の経過報告― ○合田 爽馬（一般社団法人日本環境アセスメント協会/（株）エコリス）、塘 研、渡邊 春佳、遠藤 梓、内田 大貴、永尾 謙太郎、運天 さつき、高松 慎吾、大川 春樹	一般

■エクスカーショ 海上の森

9月6日（土）12:50 集合 名古屋大学 13:00 発（バス移動）

14:00~15:45 あいち海上の森センター訪問、及び、海上の森内散策

15:45~16:00 バスで移動

16:00~17:00 モリコロパーク 散策・自由解散

環境アセスメント学会大会実行委員会 主催
国立大学法人東海国立大学機構名古屋大学未来材料・システム研究所 共催
公開シンポジウムの概要
テーマ「愛知万博 20 年：過去，現在，未来」

1. 開催主旨

2005 年に愛知県の長久手町（当時）、豊田市、瀬戸市にまたがる地域で自然の叡智をテーマに愛・地球博が開催された。その準備過程で行われた環境アセスメントでは、自然環境への配慮、生活環境への配慮等の取組が行われた。会場候補の一つであった海上の森では、オオタカの生息が確認されるなどを理由とし多くの自然環境面への配慮が行われた。

愛知万博開催後 20 年を経た今、過去の愛知万博の環境アセスメント経緯を振り返るとともに、現在の海上の森の現状を理解し、将来の海上の森のような自然を継承していく手段としての環境アセスメントの在り方を議論することを目的として、本企画シンポジウムを行う。

2. 日時・場所

日時：2025 年 9 月 5 日（金） 14:45-16:55

場所：名古屋大学東山キャンパス IB 電子情報館中棟 2 階 大講義室

3. 進行

[趣旨説明]

14:45-15:00(15 分) 小森 繁（環境省 参与：前環境省中部地方環境事務所長）

[講演]

15:00-15:20(20 分) 愛知万博を振り返る 小林 正明（元環境事務次官，当学会副会長）

15:20-15:40(20 分) 海上の森の今 大村 宏（あいち海上の森センター所長）

<休憩> 15:40-15:45(5 分)

[話題提供]

15:45-15:50(5 分) 原科 幸彦（千葉商科大学前学長、東京工業大学名誉教授）

15:50-15:55(5 分) 吉田 正人（日本自然保護協会監事，筑波大学名誉教授）

15:55-16:00(5 分) 町村 敬志（東京経済大学教授、一橋大学名誉教授）

16:00-16:05(5 分) 福井 弘道（中部大学教授）

[パネルディスカッション]

パネラー：話題提供者及び小林正明氏

モデレーター：村山武彦（東京科学大学，当学会会長）

コメンテーター：山本 麻衣（環境省 大臣官房 環境影響評価課長）

16:05-16:45(40 分) パネルディスカッション

16:45-16:50(5 分) 会場からの意見

16:50-16:55(5 分) コメンテーターによるコメント

以上

【参加募集】環境アセスメント学会 2025 年度第 24 回大会イベント
環境省主催、名古屋大学未来材料・システム研究所共催、環境アセスメント学会後援シンポジウム
環境影響評価の審査の在り方について
—地方公共団体の環境影響評価審査会のこれから—

■開催趣旨

2050 年カーボンニュートラルの実現に向けて、再生可能エネルギーの最大限の導入に向けた取組が進められています。再生可能エネルギーの導入にあたっては、環境への適正な配慮とともに、地域との共生の観点が重要となっており、環境アセスメントにおいては地方公共団体の環境影響評価の審査会に期待される役割も変化してきています。

令和 6 年 8 月には環境アセスメント学会から環境省及び各地方公共団体に対して、環境影響評価審査関係者の交流推進に関する提言がありました。また、令和 7 年 3 月には中央環境審議会の「今後の環境影響評価制度の在り方について（答申）及び風力発電事業に係る環境影響評価の在り方について（二次答申）」において、国と地方公共団体の審査関係者の情報交流の推進を図ることとされました。

このような背景を踏まえ、本シンポジウムでは、環境アセスメントの審査に関わるそれぞれの立場から見た課題等について話題提供をいただくとともにパネルディスカッションを行います。また、広く動画で配信することを通じ、これからの環境影響評価の審査の在り方について、審査に関わる多くの皆様とともに考えていく契機となることを期待します。

■開催概要

名 称：環境影響評価の審査の在り方について —地方公共団体の環境影響評価審査会のこれから—

日 時：令和 7 年 9 月 4 日(木) 14:00～17:00 (13:30 開場)

※環境アセスメント学会年次大会（9 月 5 日(金)、6 日(土)）の前日

場 所：名古屋大学 東山キャンパス IB 電子情報館 中棟 2 階 大講義室及びオンライン配信

<https://www.engg.nagoya-u.ac.jp/access/>

※オンライン配信も併用したハイブリッド開催となります。

主 催：環境省

共 催：名古屋大学未来材料・システム研究所

後 援：環境アセスメント学会

参加費：無料

■プログラム（予定）

(1)開会挨拶 山本 麻衣（環境省 大臣官房 環境影響評価課長）

(2)話題提供（タイトルは仮題）

①審査関係者の交流推進に向けた環境アセスメント学会からの提言

小林 正明（環境アセスメント学会 副会長、一般財団法人環境イノベーション情報機構 理事長）

②学識経験者から見た環境影響評価の審査の現状と課題

片谷 教孝（桜美林大学 リベラルアーツ学群 教授）

③審査委員から見た環境影響評価の審査の現状と課題

石井 一英（北海道大学 大学院工学研究院 環境工学部門 教授）

④地方公共団体から見た環境影響評価の審査の現状と課題

郡島 啓 （山口県 環境生活部 環境政策課 環境アセスメント班 主任）

⑤コンサルタントから見た環境影響評価の審査の現状と課題

水口 拓（アジア航測株式会社 エネルギー事業部 環境・エネルギー技術部 技術部長）

(3)パネルディスカッション

(4)閉会挨拶 山本 麻衣（環境省 大臣官房 環境影響評価課長）

■その他：参加方法等の詳細につきましては、環境省ホームページをご確認ください。

[シンポジウム「環境影響評価の審査の在り方について」の開催について | 報道発表資料 | 環境省](#)

自然を識り、豊かな未来につなぐ



株式会社東京久栄

TOKYO KYUEI CO., LTD.

- ✓ 環境コンサルタント
- ✓ 海洋エンジニアリング
- ✓ 水中メンテナンス
- ✓ 新領域（再エネ、地域振興）

〔本 社〕 東京都千代田区岩本町 2-4-2

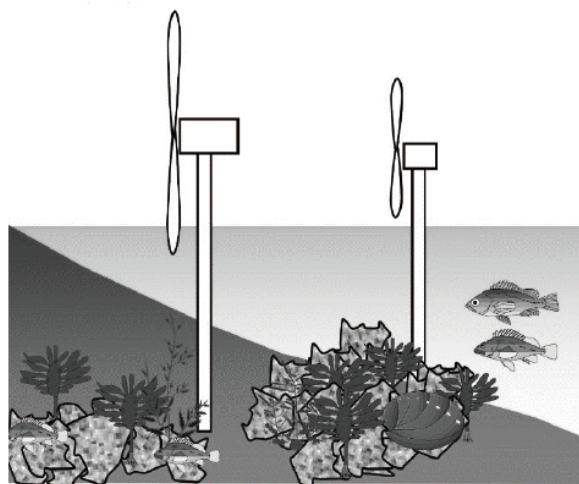
江戸新金網ビル 4F, 7F

〔技術センター〕 埼玉県川口市芝 6906-10

〔支店/営業所〕 九州/ 千葉、磯部、

四国、広島、沖縄、

ジャカルタ



【藻場造成による漁業振興イメージ】

株式会社 ポリテック・エイディディ

POLYTECH ADD

私たちは、明日の「都市」と「環境」を創造する
コンサルティング集団です

〒104-0041

東京都中央区新富1-18-8 RBM築地スクエア

TEL: 03-6222-8911 FAX: 03-5541-3501

URL: <https://www.polyadd.co.jp>

代表者 代表取締役社長 望月 宣典

設 立 昭和50年（1975年）5月

登 録 建設コンサルタント登録

（都市計画及び地方計画部門、造園部門、建設環境部門、

河川、砂防及び海岸・海洋部門）

一級建築士事務所登録

3つのグループの力を結集して
コンサルティングを行います。

再開発計画グループ

民間の共同事業から市街地再開発
まで、初期段階から権利者や公共
団体あるいはディベロッパーの
方々と協力して計画の実現に取り
組んでいます。



環境計画グループ

計画段階から事業段階までの環境アセスメントの一連の対応（配慮書・方法書・準備
書・評価書、住民・行政・審議会対応、事後調査等）を行っています。

また、地球温暖化対策実行計画、カーボンニュートラルに向けた調査検討、排出量取引
等の脱炭素・エネルギー計画、ABINC・SEGES認証等の生物多様性保全・緑の評価、
CASBEE街区等の都市環境性能評価、自然環境保全・再生計画や外来種防除・かいぼり
運営等の生物多様性保全・生態系保全計画、環境基本計画や環境報告書・生物多様性地
域戦略・緑の基本計画等に取り組んでいます。

都市・造景計画グループ

都市計画マスタープラン、まちづくり都市再生・地域再
生、産業振興、公園・緑地等の計画・設計の他開発申請業
務にも取り組んでいます。



A member of Tokio Marine Group

サステナブルな未来の実現に向けて

「総合力×DX」で環境・社会課題を
解決するソリューションを提供します



NIPPON KOEI

誠意をもってことにあたり、技術を軸に社会に貢献する。

<https://www.n-koei.co.jp/consulting/>

Pacific
Consultants

Producing
The Future™

Producing The Future



www.pacific.co.jp



パシフィックコンサルタンツ株式会社

〒101-8462 東京都千代田区神田錦町三丁目22番地

地域本社・支社：首都圏、北海道、東北、北陸、中部、大阪、四国、中国、九州、沖縄

海外拠点：シンガポール支店、ジャカルタ駐在員事務所、マニラ駐在員事務所

社会イノベーション事業本部 環境共生部

TEL:03-6777-1671 (部代表) FAX:03-3296-0527

未来を切り拓く環境アセスメント

2025 年度主要施策

- 再生可能エネルギー分野の環境アセスメントの進展への貢献
- 自然的・社会的リスクに対する環境アセスメントの貢献
- 本部・支部一体となった活動の推進による会員サービスの向上
- 環境アセスメント士の活躍の場の拡大
- 若い世代・中堅技術者の育成や大学生を対象とした業界 PR など
会員の人材確保や人材育成サポート
- 最新の環境の問題・課題についての情報発信

「環境アセスメント士」 認定資格試験

「環境アセスメント士」認定資格制度は、環境アセスメントに専門特化した資格制度であり、(一社)日本環境アセスメント協会が環境アセスメント実務者の専門的な技術・技能を認定するものです。本資格制度による「環境アセスメント士」有資格者数は、現時点で総勢 796 名に達しました。

2025 年度の認定資格試験は、11 月 23 日(日・祝)に実施する予定です。

<2025 年度 認定資格試験の概要>

【資格部門】:「生活環境部門」並びに「自然環境部門」

【受験資格】: 四年制大学卒; 実務経験 5 年以上、大学院卒; 3 年以上、左記以外; 8 年以上

【試験科目】: 3 科目(業務経験、専門知識・共通基礎、管理技術等)

【試験日時】: 2025 年 11 月 23 日(日・祝)

【試験場所】: 札幌、東京、大阪、福岡

(問合せ先) 資格・教育センター

E-mail: a-qec@jeas.org

(一社)日本環境アセスメント協会 (JEAS)

〒102-0092 東京都千代田区隼町 2-13 US 半蔵門ビル 7F

TEL: 03-3230-3583 FAX: 03-3230-3876 E-mail: jeas@jeas.org



詳しい協会活動の内容、入会申込み等は、ホームページ
(URL: <https://www.jeas.org>)をご覧ください。